

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

学校教育目標：「自ら学び ひとつつながり しなやかに未来を拓く人」

知：向上心を持ち、主体的に考え学び続ける人
 徳：自他ともに大切に、真心と思いやりのある人
 体：自ら健康・体力づくりに努め、心身ともにたくましく生きる人
 公：元気なあいさつを通し、地域や社会とともに歩む人
 関：多様性を尊重し、広い視野をもって未来へ進む人

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

- 自己肯定感
- コミュニケーション能力
- 向上心をもって、挑戦、探求する力

具体化した資質・能力

- 自分のよさや強みを理解する力（セルフアナライズ）
- 自分の考えや意思を他者に伝えられる力（アウトプット）
- 失敗を恐れることなく自己実現に向かって行動する力（チャレンジ）

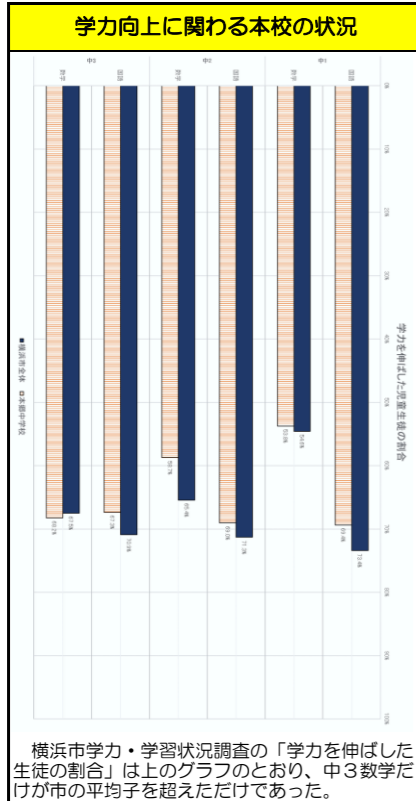
中期取組目標

学校スローガン：「あ(挨拶)・せ(清掃)・か(感謝)・け(けじめ)」

学校スローガン「あ・せ・か・け」を生活規律と学習規律に据え、生徒と教職員が共に汗をかきながら、子どもが主役の学校づくりを進めます。公立の中学校として、3つの力（①自分にふさわしい進路選択ができる学力。②豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション力。③発達に応じて心身の健康を自分でコントロールできる力。）を子どもたちに身に付けさせます。変化が激しいことが予想されるこれからの社会を「しなやかに」「したたかに」生き抜いていける子どもたちを育成したいと考えています。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	①資質・能力や見方・考え方を育成します。そのために、基礎・基本を基盤にした主体的な学び・対話的な学び・深い学びを取り入れた授業を展開します。 ②学び合いを通して問題を発見し、身に付けた知識や技能を活用し、思考力・判断力・表現力等をはたかかせて解決していく力を育みます。
担当	学習指導部



今年度の目標	
「学力を伸ばした生徒の割合」の数値を横浜市平均まで押し上げる。	
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	本校の生徒は授業において、他の生徒の考えや意見を聞くことはできるが、自分の考えや意見を出すことが苦手である。アウトプットは、授業でインプットした知識や情報を記憶に定着させるのに効果的とされている。学力向上の鍵は、教員そのことを意識した授業改善に取り組むことが必須である。具体的には、聞くだけでなく、生徒自らが進んで自分の考えや意見を発表させる機会を授業中に設けることで、学力を向上をさせたいと考えている。 そのためにも、校内授業研究を計画的に実施し、普段から授業を見せ合う学校風土を培っていききたい。
下半期	

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①学校スローガン「あ(挨拶)せ(清掃)か(感謝)け(けじめ)」を生活規律とし、安全で調和のとれた学校生活を送れる生徒を育成します。 ②自他ともにかげがえのない存在であることを理解し、互いの存在を認め合うことで、自尊感情（自己有用感・自己肯定感）を育みます。
担当	道徳指導係

豊かな心に関わる本校の状況
全国学力・学習状況調査から次の4項目を取り上げてみました。数字は、「どちらかといえば当てはまらない」と「当てはまらない」をあわせた数字になります。
7、将来の夢や目標を持っていますか？ 47.7% -14.7%（全国比）
10、困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか？ 39.4% -6.6%
12、学校に行くのは楽しいと思いますか？ 21.0% -3.5%
14、友達関係に満足していますか？ 20.4% -10.1%
悪いところばかり見てはいけませんが、7や14の設問は全校平均と比べ、10%以上も低い数字になっています。また、12と14を見る限り、学校生活に満足していない生徒が2割程度いることがわかります。そして、10の不安を教員等に相談できないという生徒が4割もいることにショックを受けました。

今年度の目標	
自尊感情（自己有用感・自己肯定感）を醸成する。	
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	教職員が率先垂範することで、学校スローガン「あ(挨拶)せ(清掃)か(感謝)け(けじめ)」を生活規律として全校に浸透させたい。そのことが、生徒一人ひとりが安心して安全に過ごせる学校になることを理解させたい。当たり前のことが当たり前に行える生徒の育成を目指したいと考えている。 また、道徳の授業を中心にすべての学校教育活動を活用して、自他ともにかげがえのない存在であることを理解させたい。具体的には、一人ひとりの違いを認め合える人間関係を構築し、自尊感情を高めることを目指したいと考えている
下半期	

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①「体力向上1校1実践運動」として、保健体育科授業開始時のランニング等を実施し、体力向上を図ります。 ②保健教育、学校保健委員会等を通して、生徒自らが健康・体力づくりを行えるよう取り組みます。
担当	保健体育科・養護教諭

健やかな体に関わる本校の状況
(1) 体育・健康に関する実態 身長、体重の体格は、全国平均並みである。BMI指数は、全体の約99%は普通～ややせの傾向を示し、肥満傾向のある生徒は少ない。朝食を毎日食べている生徒は全体の約80%を示し、全国平均の約83%を下回っている。睡眠時間は6時間以上の生徒が約85%で全国平均の約87%より下回っている。 (2) 体力の概要と要因の分析 令和5年度の結果から、ほとんどの項目が全国平均より低い記録である。特に、男女ともに反復横とびと持久走は著しく下回る。このことからコロナ禍において運動機会が全体的に減少し、体力や筋力が低下していると思われる。体育や保健の授業を通して、健康であるために体を動かすことの意義や楽しさを示していく必要がある。 ※右のチャートは50は全国平均を示す

今年度の目標	
子どもの体育・健康面の姿から課題を明確にし、保健体育科の授業を中心としながら、教育活動全体を通して健やかな体の育成を目指します。	
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	①コロナ禍で低下した体力や筋力を回復させるため、心身ともにたくましい生徒を育成します。保健体育の授業で体を動かすことの意義や楽しさを示し、自ら運動に取り組む姿勢を育みます。②保健教育や学校保健委員会等を通して、自らの健康を保持増進しようとする態度を育みます。
下半期	